令和6年度
SDGs推進レポート集

作成協力：山梨大学

1. 甲府信用金庫
2. 国際建設株式会社
3. 株式会社サンワライフ保険
4. 東京ガス山梨株式会社
5. 東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社
6. 株式会社ハギ・ボー
7. 株式会社メイキョー
8. リコージャパン株式会社山梨支社甲府事業所

作成協力：山梨学院大学

1. anlib株式会社
2. 株式会社太滝
3. 株式会社オズプリンティング
4. 株式会社七保
5. 株式会社森銀

甲府市 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

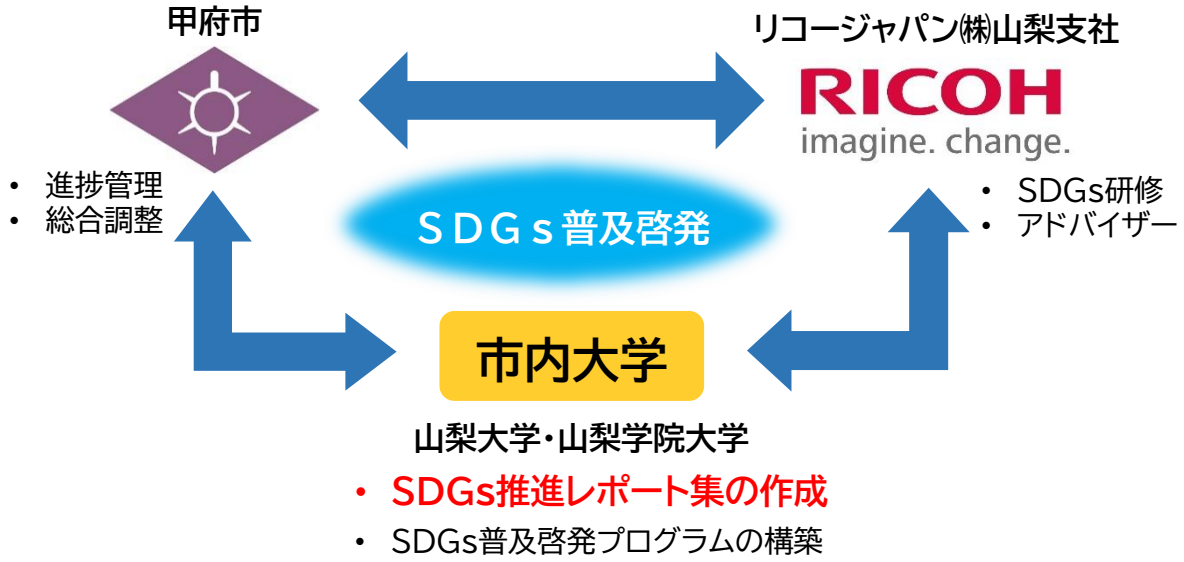
甲府市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

SDGs推進レポート集とは？

甲府市が、「SDGsの推進に関する連携協定」を締結したリコージャパン㈱山梨支社と、市内大学との産学官連携により取り組む**「若者によるSDGs普及啓発事業」**の一環として、SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体として登録されている**「甲府市SDGs推進パートナー」**を学生が取材し、学生の柔軟な視点から登録パートナーのSDGsの取組内容等をまとめたレポート集を作成しました。

◆産学官連携で取り組む「若者によるSDGsの普及啓発事業」

市内大学の学生が主体となり、子どもから若者、高齢者までの幅広い世代にSDGsの理解を深め、具体的なアクションへと繋げてもらうための普及啓発に取り組みました。



取材の様子

甲府市 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

甲府市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

令和6年度
SDGs推進レポート集
～山梨大学～

私たちが取材した
SDGs推進パートナー
8団体の活動を
ご覧ください

作成協力団体

1. 甲府信用金庫
2. 国際建設株式会社
3. 株式会社サンワライフ保険
4. 東京ガス山梨株式会社
5. 東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社
6. 株式会社ハギ・ボー
7. 株式会社メイキョー
8. リコージャパン株式会社山梨支社甲府事業所

山梨大学
生命環境学部
地域社会システム学科

新木 輝
大鷹 颯斗
川上 琴未
清水 倖
鈴木 優莉
時田 玲
中込 ゆり子
深澤 美羽

甲府信用金庫

ど真剣にお客様に向き合う

1

甲府信用金庫　経営企画部
経営企画課　課長

立川 智一 さん

甲府市丸の内にある「甲府信用金庫 本部」に伺い、
SDGs事業の取り組みや想いについて取材を行った。

01 徹底的な伴走支援

『金融はインフラ業界。行政と近い存在であり、SDGsの取り組みには使命感を持っています。』

甲府信用金庫の立川さんは、「地元との共存共栄」の精神に基づき、「地域」の皆様から集められた預金を同じ「地域」の皆様へ還元するという想いで仕事に取り組んでいる。

金融機関での仕事に対するやりがいについて、『時として、企業や人を救うことにも繋がる仕事であり、人の人生がかかっている仕事に、ど真剣に向き合っています！。数人の社長さんから、「あのとき立川さんがいなかったら、今の僕はいないよ。」と言ってもらったことが嬉しかったです。』と語る。

お客様と関わる上では、「壁を作らない」、「まずは傾聴する」、「同じ目線に立ち物事を考える」、「お客様のことを正しく理解するために、事業者の実態を把握する」等、『徹底的な伴走支援』に努めることを大切にしている。

当日は山梨クィーンビーズの開幕戦前日であり、職員の皆さんは応援Tシャツを着用して業務に従事していました。

02 CO_2排出量削減の取り組み

CO_2排出量削減のために、紙の削減やテレビ会議システムの導入、融資の稟議書類の電子化等の取り組みを行っている。そうすることでCO_2排出量削減だけでなく、審査のスピード感の向上にも繋がっている。

また、お札の裁断片を30%ほど混ぜた、再生封筒を利用する取り組みも行っている。

その他には、山梨県下で、納税書類を電子化する取り組みも行っており、納付する事業者の手続き負担軽減に加え、領収印を押す際のヒューマンエラーの防止など、事業者、金融機関双方の業務効率化に繋げている。

03 SDGsロードマップ

今後の展望として「こうしんSDGsロードマップ」を、実現したい未来を起点として描いている。「Step1.本部主導による体制整備と知見の積み上げ」、「Step2.全体的なチャレンジで地域をリード」、「Step3.持続可能なモデルの確立」という3つの段階的に分けて、今後のアクションプランを打ち立てている。

また、今年度の新たな取り組みとして、プロバスケットボールチームの山梨クィーンビーズと共同で「古着リサイクルキャンペーン」を全店舗で実施した。回収された古着は再資源化され、Tシャツに生まれ変わる。

その他に、小中学生を対象とした体験型金融授業の受入や、小学生以下の子供だけが参加できる「キッズフリマ」を開催するなど、金融リテラシー向上のための取り組みも行っている。

若者や大学に求めていることについて、『①民間企業に対して、営利目線ではないアイディアを創出してほしい。②学生が子どもと大人の中間セクションとなり、地域文化の継承を行っていってほしい』と語る。

これらをSDGs17の目標に当てはめた際、特に「8.働きがいも経済成長も」、「9.産業と技術革新の基盤を作ろう」、「11.住み続けられるまちづくりを」、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」の4項目を、意識するべき点として挙げている。

甲府信用金庫　本部
〒400-0031
甲府市丸の内2丁目33番1号

●編集後記

立川さんは仕事やお客様、SDGsに対して熱い想いを抱いて取り組んでいるということを取材を通して伺うことが出来た。

●取材チーム

新木 輝　大鷹 颯斗
川上 琴未　清水 倖

国際建設株式会社

誰一人取り残さない社会

2

国際建設株式会社　社長

佐々木 幸一 さん

建築工事や土木工事事業を行い、山梨県立図書館や藤村記念館など、
甲府を代表する建造物の建設事業を担う企業 「国際建設株式会社」に伺い、
SDGs事業の取り組みや想いについて取材を行った。

01 建設会社ならではの環境意識

国際建設株式会社では、産業廃棄物の再生利用や排出抑制に2013年から力を入れている。「つくる責任、つかう責任」として、別の事業にも使えるものの再利用を行ったり、処分時にリサイクル可能な資源を使用するようにしたりと、ゼロエミッションを心がけている。

ごみの分別、紙の使用量、電気使用量などをまとめ、会議や社内報で成果を見える化することで、社員にも意識を持たせているという。

また、下水管を再生する新技術、『SPR工法』を活用することで、下水管を開削せず、水を流したまま作業を行うことが可能となり、工事に伴う産業廃棄物の発生が無く、環境への負荷を抑制している。（写真）

今後は、下水道工事における下見・施工完了チェック専用のドローンの導入なども検討している。

SPR工法の様子

02 「社員を大切に」健康経営

会社では、社員の健康維持に力を入れている。健康経営優良企業にも認定されており、毎年社員に健康診断を行うだけでなく、再検査費の負担や保健指導も行っているという。

社内には至るところに健康に関するポスターが貼られていた。「安心して長く働けること」や「働きがい」を大切にしている。

また、生涯教育のために資格取得や講習会参加のための資金援助も行ったり、福利厚生制度を整えるなど、身体だけでなく心も健康で居続けられる仕組みを整えている。

社内階段
健康に関するポスターが
貼られている様子(写真上)

健康経営優良法人の賞状
(写真右)

03 誰一人取り残さないこと

会社が最も大切にしていることは、「誰一人取り残さないこと」である。建設業を営む上で、マンパワーが重要な力であるため、社員・協力業者・お客様など、人を大切にし、誠実な姿勢で業務を行うことを最も大事にしている。

SDGsに取り組む際においても、包摂性を意識して取り組んでいるという。今後は、SDGsの目標項目ごとの取り組み方の差をなくしていき、課題を取り残さないことを目指している。

子どもからもらったお礼の絵(写真上)
取材の様子(写真下)

国際建設株式会社
〒400-0026
甲府市塩部4丁目15-5

●編集後記

社員には安心できる職場環境を、お客様には信頼できるサービスを提供していて、まずは人を大切に、という姿勢が魅力的だと感じた。

●取材チーム

新木 輝　大鷹 颯斗
川上 琴未　深澤 美羽

株式会社サンワライフ保険

地域の未来と安心のために

3

株式会社サンワライフ保険
代表取締役
稲田 博 さん

甲府市桜井町に本社を置く「株式会社サンワライフ保険」に伺い、SDGs達成への取り組みや想いについて取材を行った。

01 自然災害に備えて

いつ起こるかわからない自然災害に備えて、甲府市と災害支援に関する協定を結んでいるほか、社屋を一時的な避難スペースとして開放することを想定し、倉庫内に三十世帯が一週間過ごすことのできる食料品を備蓄している。また、ガスコンロやアイマスク、耳栓、お湯のいらないシャンプー、爪切りなど、避難所生活での発生しうるストレスを想定し、様々な配慮のもと日用品も備えている。

社用車の電気自動車や屋上の太陽光パネルで発電した電力を蓄電するシステムを備えており、それらをフル充電すれば、社屋の電気を三日間確保することができる。

実際の備蓄の様子（写真上）

02 食品ロスの削減と生活の支援

食品ロスを減らし、また生活に困窮する家庭の支援のために、フードバンク特別会員となり、寄付を拡大している。こうした活動の資金は本業の売り上げの一部で賄っているほか、寄付を行っている食料の中には社員の家にあるが消費しないもの、上記の倉庫の備蓄を入れ替える中で賞味期限が近いものなどがあり、食品ロスの削減と生活の支援を並行して行っている。

03 SDGsに取り組むなかで…

災害協定を結んだり、備蓄品を確保する中で得られる、「地域の役に立っている」という実感こそがSDGsに取り組む中で感じるやりがいである。

また、SDGsの取り組み自体が、社員の方の福利厚生につながっている。社員の方に災害時に役立つ道具を備えたリュックを持たせていたり、社員の方に自家用車に搭載できるドラレコを提供していたりと、SDGsへの取り組みと社員の方への配慮が重なり合っている。

SDGsに取り組む保険代理店はまだ少なく、製造業のように事業内容と直接結びつけることは難しい。だからこそ、「自分たちが率先して活動内容を考え、それが周りに波及していくと嬉しい。」と、代表取締役の稲田さんは語った。また、若者や大学に対し、「若者目線の斬新なアイデアが欲しい。」「長く続けることで得られる知識や経験があるため、どんなことでもすぐに見切りをつけずに継続してほしい。」とも語った。

山梨県の主催イベントに出展した際に制作した看板と取材にご対応いただいた市川さん(写真上)
ブース訪問者に興味のあるSDGsの番号のシールを貼ってもらい看板を完成させた。

株式会社サンワライフ保険　本社
〒400-0803
甲府市桜井町366-1

●編集後記

地域や業界のパイオニアとしてSDGsに取り組む姿が非常に印象に残った。本業の事業内容に縛られない取り組みに感心した。

●取材チーム

大鷹 颯斗　清水 倖
鈴木 優莉　川上 琴未

東京ガス山梨株式会社

地域とともに環境貢献

4

東京ガス山梨の
SDGsキャラクターも誕生

東京ガス山梨　企画総務部
脱炭素推進・地域共創グループ
マネージャー
坂本　潤 さん

甲府市北口にある「東京ガス山梨株式会社」にて、
SDGs事業の取り組みや想いについて取材を行った。

01 クリーンなエネルギーを

東京ガス山梨から供給されるガスは、軽油や灯油といった他の化石燃料と比較して、二酸化炭素の排出量が少ないクリーンなエネルギー。そのため、顧客が増えることがSDGsにつながる、事業そのものがSDGs活動になっているのだという。

また、水素と二酸化炭素からメタン（都市ガス）を合成する「メタネーション」と呼ばれる技術を用いて、カーボンニュートラルなガスを供給するための取り組みを訴求するとともに、FCy FINE PLUSと呼ばれる、水素エネルギーをはじめとするカーボンニュートラルの推進に携わる団体に参画している等、多様な取り組みを行っているのだという。

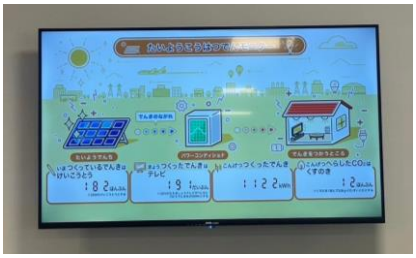
取材中の様子

02 社内に向けたSDGs啓発活動

坂本さんは、脱炭素推進・地域共創グループという専門部署を活かして、社員の意識づくりにも注力しているという。

社内向け広報紙「脱炭素推新聞」の発行や、啓発パネルを通した脱炭素、SDGsに関する情報共有や、カーボンニュートラルにまつわるカードゲーム形式の研修を取り入れているそうだ。

また、社屋の屋上に設置した太陽光パネルの発電量や使用量がわかるモニターを、来客用ショールームだけでなく、社員の勤務スペースにも設置したことで、電力の見える化による社内の節電意識の啓発にも取り組んでいる。



設置された太陽光パネル（写真上）
社内に設置されたモニター（写真下）

03 SDGsと地域貢献

東京ガス山梨では、地域とともに発展していく企業として地域貢献も大切にしているのだそう。今年解体となったガスホルダーの撤去に伴うオフセットクレジットの活用では、山梨県有林由来のプロジェクトからのカーボンクレジットを選定したのだという。

また、甲府市SDGs推進パートナーとの繋がりを活用し、地域の子供に向けて職業体験や、木育のイベントなどのコラボ活動を行い、幅広く地域に貢献している。これらの活動は、SDGsに貢献できるだけでなく、社員のモチベーション向上にもつながっているのだという。

園児とのリサイクルワーク風景（写真上）
ガスホルダーの撤去工事風景（写真下）

東京ガス山梨株式会社
〒400-0024
甲府市北口3-1-12

●編集後記

SDGsの取り組みについてはもちろん、エネルギーそのものについても考えを深める貴重な機会になった。

●取材チーム

川上 琴未　清水 倖
鈴木 優莉　時田 玲

東京電力パワーグリッド株式会社　山梨総支社

一分一秒でも早く電気を送る

5

東京電力パワーグリッド株式会社
山梨総支社甲府事務所 次長 兼 地域事業部長
望月　信 さん

東京電力パワーグリッド株式会社
山梨総支社 広報・渉外部長
平井 万里 さん

甲府市丸の内にある「東京電力パワーグリッド株式会社 山梨総支社」に伺い、SDGs事業の取り組みや想いについて取材を行った。

01 安定供給が一番の柱

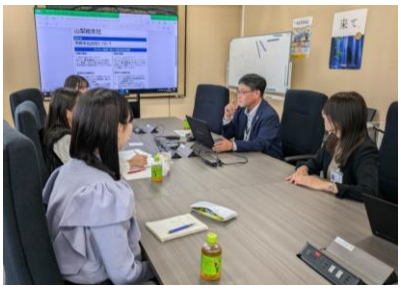
「安定した電気をお届けすることが使命」「災害があって皆さんが電気を使えなくなることが一番困る！電気を少しでも早く送ることにやりがいを感じている」と熱く語るお二人。東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社では、電気を安定供給できるよう、様々な取り組みが行われている。

停電の原因としてよくあるのは、雷や暴風雨による倒木が電線にかかってしまうこと。そうなる前の予防として事前伐採協定を結び、倒木して停電を起こすリスクがある樹木を事前に伐採している。

山梨県の27市町村中、山梨総支社の受け持ちエリアとなる25自治体とは連携協定を結んでおり、自治体と協力することでいち早く電気がつけられるようにしている。

「TEPCO速報」では、停電、雷、雨雲の情報を発信している。

停電の早期復旧はもちろん、何が起きている、どこで電気が止まっている、が何もわからない住民の不安も解消するための情報提供である。



02 クリーンなまちづくり

脱炭素に向けた重点的な取り組みとして、EV100宣言のもと、業務車両（特殊車両等を除く）のEV化を推進している。山梨総支社では、令和五年に、業務車両に占めるEV車の割合が50％を超えた。

EV車は、平常時はガスを排出しないクリーンな車として脱炭素に資するが、望月さんは非常時の使い方にも注目しており、「非常時にEV車は動く蓄電池になります。若者は災害時の主な情報取得ツールがスマホじゃないですか。災害が長期化した場合、EV車を電源としてスマホを充電できる。平常時の使い方と非常時の使い方の両面で活用できると捉えています。」と話した。

また、東京電力パワーグリッド株式会社では、自治体と連携し、エネルギーの削減・効率の良い使い方を一緒に考えていくことで、防災に強くて脱炭素にも資するまちづくりを行っている。小学生向けエネルギー講座も行うなど、住民と一体となって住み続けられるまちづくりを目指している。

03 人のつながりを大事に

大切にしている思いはあるか？という質問に対して、望月さんは微笑みながらこう答えた。「私が一番大事にしているのは、人のつながりです。」環境の変化や仕事内容の変化がある中で、仕事仲間と共に技術を磨き、共に成長し続けることが大切だという。仲間意識が強まることでコミュニケーションが円滑になり、技術力・仕事効率がアップし、結果的に『安定した電力供給』としてアウトプットされるのである。

平井さんも「よくコミュニケーションをとり、相互に頼りながらも、頼ってもらえる人でありたい。」と笑顔で語った。また、こうも言っていた。「女性も会社の中で活躍してほしい！」と。後に続く人たちのためになればと、女性社員の立場で伝えられることは積極的に伝えているそうだ。

役割や課題が大きく、とても一人で抱えきれるものではないインフラ産業。東京電力パワーグリッド山梨総支社では、社員がグループや部門の垣根を越えてつながり、課題を共有し、一丸となって事業に励んでいる。

東京電力パワーグリッド株式会社 山梨総支社
〒400-0031
甲府市丸の内1-10-7

●編集後記

電気がつくことがあたりまえになっていたが、24時間365日、電気を送るために尽力する人がいることを改めて感じ、ありがたく思った。自治体とのつながりも社員同士のつながりも大事にしていることが分かった。

●取材チーム

清水 倖　鈴木 優莉
時田 玲　中込 ゆり子

株式会社ハギ・ボー

生活と地球環境を支える

6

株式会社ハギ・ボー
代表取締役 社長
萩原 利樹 さん

甲府市上今井町に本社を置く「株式会社ハギ・ボー」に伺い、SDGs事業の取り組みや思いについて取材を行った。

01 全ての事業部がSDGsに取り組む

ハギ・ボーでは、創業以来、水門調査・土壌汚染調査・地中熱ヒートポンプシステム事業など環境関連の事業に取り組んできた。SDGsが公表されてからは、事業を展開している中でできることによって社会に貢献できるよう、社員全員で取り組んでいる。

SDGsについて自分たちがまず勉強し、何ができるのかを考えなければならないと考え、2022年にはSDGs委員会を発足。全8事業部からそれぞれ委員を選任し、各事業部のストロングポイントを生かした取り組みを作成し、具体的試案を部内に提示したり、検証を行ったりしている。その効果として、温室効果ガスの排出削減の推進や節電、暖房のヒートポンプシステム化などが実現されてきている。

また、各委員の部内での活動により、「私たちもSDGsに貢献している、貢献しなくてはいけない」という意識変化が進んだ。それに伴って、「もったいない」の意識拡大や、環境事業に取り組んでいる企業であることにロイヤリティーを持つこと、モラルの向上が見られるようになったという。

このような取り組みや意識改革で、お客様に「環境」について改めて情報発信することができるようになったそうだ。

02 技術力と安全第一

環境関連の事業を行う上で様々な技術が使われている。中でもSDGsに貢献する技術として、地中熱ヒートポンプシステムが挙げられる。地中の一定の温度と外気温との温度差をヒートポンプによって利用し、冷暖房や給湯等に用いる技術で、電力消費の抑制や二酸化炭素排出量削減を実現することができる。

現時点で病院や給食センターなどの公共施設に取り入れられており、今後は公共施設への導入を進める他に、大型商業施設への施工、屋内スポーツ施設への施工、一般家庭への普及を目指している。

地中熱ヒートポンプ模型

事業を行うだけでなく、労働環境を整えることも注力されている。萩原社長は「早いことや儲けを優先してはいけない。安全なくして何事もない。」と話していた。実際に、労働災害を防ぐため、労災防止スローガンを掲げたり、仕事の前にKY(危険予知)を行って危険を防ぐ方法を考えたりしている。

03 SDGsへの熱い思い

取材中、萩原社長は、SDGsに真剣に取り組むことの重要性を熱く語ってくれた。そして、「学生の皆さんがSDGsについて興味を持って活動してくれることが嬉しい。地球環境について自分たちから率先して学び続けてほしい。」と話してくれた。

また、学生へのメッセージを伺うと、社員の方々も「SDGsを通じて、地球環境や人道支援にもっと興味を抱き、明日がもっと明るく住みやすい環境になることに継続して活動してほしい。是非、『地球環境』を見守ってください。」と話してくれた。

ハギ・ボーは、ライフラインであり、地球環境の保全にも不可欠な「水資源」を扱う環境事業を行い、人々の生活を支えている。そして、SDGsにも社員が一丸となって本気で取り組んでいる。

株式会社ハギ・ボー
〒400-0845
甲府市上今井町740－4

●編集後記

私たちの生活に欠かせない「水」を様々な工夫が詰まった技術で支えてくれていることが実感できた。また、SDGsに取り組むことへの熱い思いが強く感じられた。

●取材チーム

新木 輝　時田 玲
中込 ゆり子　深澤 美羽

株式会社メイキョー

環境を守る・調べる・つなぐ企業 7

株式会社メイキョー
代表取締役
切刀　茂夫 さん

甲府市徳行にある株式会社メイキョーに伺い、
SDGsに関する取り組みや仕事への思いなどについて取材を行った。

01 様々な働き方に対応

メイキョーでは、ＳＤＧｓの取り組みとして就業規則の改定や、海外人材の採用などといった主に、働き方に注力している。

具体的には、勤怠管理システムにより１時間単位実績を管理したり、８時から１７時といった固定的な就業時間ではなく、様々なライフスタイルに応じた就業時間を整備した。

また、海外人材の採用にあたっては、文化や宗教などの違いを受け入れ、簡易的な礼拝室を設けたり、食への配慮をしたりしている。

メイキョーで実際に働く
インドネシア人の
ラデン・パシャさんにも
お話をうかがいました！

ラデン・パシャさん（写真右）

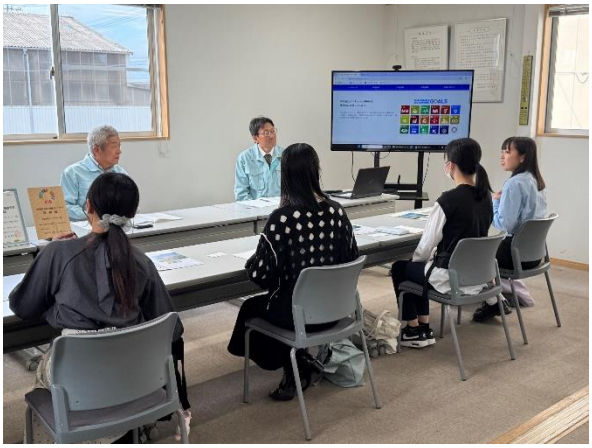
02 様々な社内の変化

ＳＤＧｓの取り組みを始めたことで、社員の仕事や会社に対する意識に変化があり、社員が自分たちの仕事・会社を愛せるようになった。

また、以前までは紙媒体でやり取りしていた会議資料をＰＣやタブレットを導入したり、給与管理、決済管理も電子化したりするといったペーパーレス化することで、社内で使用する紙の削減もできた。

03 切刀社長から学生へのメッセージ

「失敗の数だけ成功有」、「Ｔｒｙ ａｎｄ ｅｒｒｏｒ」という言葉のあるようにとにかく挑戦し続けてほしい。学び続けてほしい。学生、社会人どんな環境にあってもポジティブな姿勢を忘れずに、また、自分に対して謙虚であってほしい。



総務部 参事

丸山　哲　さん

こちらのお二人も
インタビューに
応じてくれました！

業務統括部
兼　総務部管理課　課長

向山　賢治　さん

●編集後記

環境保全だけがＳＤＧｓの取り組みではなく、社員の働き方を変化させることもＳＤＧｓの取り組みになるということを実感することができた。

●取材チーム

鈴木 優莉　時田 玲
中込 ゆり子　深澤 美羽

株式会社メイキョー
〒400-0047
甲府市徳行二丁目2番38号

リコージャパン株式会社山梨支社甲府事業所

すべての人のお役立ちに

8

リコージャパン株式会社
山梨支社　支社長
田中 弘輝 さん

甲府市幸町にある「リコージャパン株式会社山梨支社甲府事業所」に伺い、SDGs事業の取り組みや想いについて取材を行った。

01 みんなの【お役立ち】に

「お役立ち」。この言葉は、田中支社長が大切にしている言葉。お客様だけでなく、社員に対しても「お役立ち」。期待されたい以上の事で価値を提供し、感動を与えたい。そんな思いを大切にして、お客様と共に日々成長している。これは、リコーグループの創業の精神「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」に通じるものがある。

支社長の一番の喜びは、「人の成長」。苦手だったことが、仲間の支えやほんの少しの勇気によってできるようになると、自信と誇りをもって仕事が出来るようになる。すると、成長が業績達成に繋がり、笑顔が溢れる。そんな大きな笑顔の瞬間が支社長の楽しみである。

02 全員でSDGsへの意識を持つ

社員の仕事スペースには、テーブルと椅子のみ。パソコンなど、必要な最低限のものしか机の上には置いていない。退勤するときは、全てこのロッカーに片づける。ペーパーレス化によって実現したフリーアドレスな事務所は、無駄な消費を減らし、最小限の資源を最大限に活用するなどのSDGs貢献に繋がっている。

社員全員でSDGsについて考えている様子(写真上)
SDGsの17の目標が張られたロッカー(写真下)

03 コピー機販売をしながら紙削減を

リコージャパンでは、SDGsの輪を広げる取り組みの一つとして、省エネ性能の高い機器をお客様に購入していただくことに東南アジアにマングローブを植林する活動を行っている。また、社内で印刷するときは、コピー機についている端末に社員証をかざす仕組みになっている。この仕組みによって、印刷間違や紙の無駄遣いが減り、社員の意識も変わった。このように、リコージャパンでは、お客様・社員と共にSDGsへの貢献・事業成長の同軸化を進めている。

コピー機に社員証をかざす様子(写真上)
山梨支社紹介(写真右下)
マングローブ植林動画(写真左下)

リコージャパン株式会社山梨支社甲府営業所
〒400-0857
甲府市幸町2310

●編集後記

社員だけではなく、お客様と共にSDGs活動に取り組んでいる。その積極的な姿勢や熱い想いを知ることができた。

●取材チーム

新木 輝　大鷹 颯斗
中込 ゆり子　深澤 美羽

SDGsに取り組む企業や団体を
「甲府市SDGs推進パートナー」
として登録しています！

登録パートナーの一覧はこちら

甲府市 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

甲府市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

甲府市 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

甲府市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

YAMANASHI GAKUIN UNIVERSITY

令和6年度
SDGs推進レポート集
～山梨学院大学～

私たちが取材した
SDGs推進パートナー
5団体の活動を
ご覧ください

作成協力団体

1. anlib株式会社
2. 株式会社太滝
3. 株式会社オズプリンティング
4. 株式会社七保
5. 株式会社森銀

山梨学院大学
経営学部　経営学科

乾　裕真
清水　康太
灰谷　伊織
春原　秀歩
久保田　悠斗

1 anlib（アンリヴ）株式会社

anlib株式会社

デザイン編集の会社で企業から依頼を受け、パンフレットや冊子の制作を行っている。
フリーマガジンankoをはじめとした地域福祉の魅力発信や障がい者アートのレンタル事業を行っている企業。

福祉で人の可能性を広げる

SDGsの取り組みについて

Q：福祉分野で事業をしていこうと思ったきっかけはありますか？

3.11（東日本大震災）が起きた時から「地域の為に何かしたい」という気持ちを持ちました。独立してデザイン業をしていたときに障がい者の方に取材する機会があり、当事者同士のコミュニケーションはあってもそこに第三者が参加することはあまり無く、第三者が発信することで地域は変わっていくのではないかというお話を聞きました。

福祉に関する知識が無かったためかなり悩みましたが、地域の為に何かしたいという気持ちもあり、福祉分野の発信を第三者の視点から始めました。

Q：どのようなSDGsの取り組みをされていますか？

事業所ankoとanko art projectと呼ばれる障がい者のアート事業を行っています。anko art projectは、企業や団体、個人に月額制で障がい者が描いた絵画を借りていただくという事業です。収益の一部が、作家本人の定期的収入につながります。これは、アートを通じて福祉分野を知っていただくきっかけを作れる他、障がい者が社会で活躍できるきっかけをつくれる事業だと期待しています。

アート事業を進めていく中で、障がい者の方は普段作品を創作する環境が無いという声を聴き、日ごろから創作活動に集中できる場を作りたいという思いから、2024年の7月に事業所ankoをスタートしました。

SDGsを意識して活動している感覚はなく、楽しさを一番に意識しています。地域の為に社会貢献しながらお金を稼ぐことはすごく楽しくて、自分が楽しむことで人が集まって、つながりが出来ていくと感じています。

＜レポート作成者＞　山梨学院大学
乾　裕真

課題・やりがいについて

Q：事業を進める中で課題となった部分、大変だった部分はありますか？

一番はコロナの影響ででイベント等がなくなってしまったことにより、仕事が減ってしまったことが大変でした。ですが、その中でも生まれたアイデアがあるため、必ずしも悪影響になったとは言えないかもしれません。

また、身近な人が障がいを持っている人が福祉に関わることが多いんですが、私の周りはいない状態で、知識もなかったので大変なこともありました。今は第三者だからこそ出来ていることもあると実感しているので、気にならないようになりました。

Q：逆に良かったことや楽しかったことはありますか？

この事業をしていると、沢山の人の人生を変えることはできないけど、一人の生き方が確実に変わる姿を見ることが出来ます。そういった場面に立ち会えることが一番のやりがいです。デザイン業は人と接しなくても、ある程度の仕事は出来ますが、福祉の分野は真逆で、どれだけ密に接することが出来るかが大切になります。この時代に人とのつながりが重要視される職業はあまり無くて、そこが面白いと感じています。人とつながりその人の魅力を引き出して、地域に発信することで当事者の自信になっていくことにも面白さを感じています。また、当事者やそのご家族の方、全く関係ない方からの応援や感謝の声をもらうことが増えてきて、そういった声も今の力になっています。

作品について

Q：作品にはどのようなものがありますか？

レンタルアートで利用している絵の他にアクセサリーや雑貨の制作も行っています。

創作者の方には絵を描くことが好きでずっと集中して描き続けられる方や、手で書いたとは思えないほど細かい絵を描く方など、いろいろな方がいます。どの方も自分の世界を持ちながらそれを形にしていて、地域の方々がこのような作品に触れて、障がい者アートを少しでも多くの人に知ってほしいという思いがあります。

伝えたい想い

代表取締役
堀内 麻実

福祉にはマイナスイメージが多いです。今は福祉のみではなくて、私たちのようにデザインと福祉をかけ合わせたり、スポーツジムと介護施設をかけ合わせたり、全く違う分野と福祉を同時に行っている所もあります。

自分たちのメディアを通じて少しでも福祉を面白いと感じてくれる人が増えたらいいなと思っています。

取材を終えて

山梨学院大学
乾　裕真

福祉分野に関して知識が浅い状態での取材でしたが、福祉の異なる分野とかけ合わせられる柔軟性や一人の人生を変えることが出来る大きな力を学ぶことが出来ました。人が持っている長所を伸ばし、選択肢の可能性を広げるという点では福祉に限らず、地域の発展に必ず必要になる部分だと感じました。障がい者の方が描かれた絵を拝見しましたが、どの作品も魅力的なものばかりでした。このような作品と触れ合い、福祉に対するイメージが良い方向に変わる人が少しでも増えてほしいと思います。

2　株式会社 太滝（おおたき）

株式会社 太滝

ブライダルジュエリー、ハイエンドジュエリーを中心に製造している会社。
若い人材を中心として、デザインの提案、手作り製作、研磨や仕上げなどのジュエリーを製造するための繊細な作業を職人たちの手によって行っている。

女性にも働きやすい環境を

SDGsの取り組みについて

Q：すべての女性へのエンパワーメントを図ろうと思ったきっかけは何ですか？

日本全体で人口が減ってきており、そんな中で女性の力を取り入れたいと考えたことが一番のきっかけです。女性には男性にはない独特な繊細さがあります。私たちの商品は品質に非常にこだわっているので、そういう面では女性の繊細な感性が必要であると考えています。
実際に従業員の約半数は女性が勤務しており、女性が増えたことによって、会社全体の環境をより充実させたものにし、SDGsへの取り組みにも目を向けるようになっていきました。

Q：CO_2の削減や3Rの活動について具体的な取り組みは何ですか？

製造に関してはCO_2を排出する作業というのはあまりなく、あえて言うのであれば会社で使用している電気やエアコンが最もCO_2を排出しています。そういった部分は、太陽光を設置してエネルギーを補ったり、節電を会社全体で行うことでCO_2削減に取り組んでいます。
これから先、取り組んでいきたいこととしては、社用車をすべて環境に配慮した電気自動車あるいはクリーンエネルギーのものに切り替えていきたいと考えています。

5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も

<レポート作成者>　山梨学院大学
灰谷 伊織

課題・やりがいについて

Q:会社としての目標はありますか？

まず思っていることは、山梨の地場産業を守っていきたいという思いが強いということです。地場産業を守るためには製造業を守っていかなければいけないと思っています。しかし、日本の製造業では職人の立場というのは弱く、職人を守るための態勢が整えられていないと感じています。私たちの会社も製造業を主に行っているので、職人たちを最後まで守っていくための環境を整えられるような会社を目指していきたいと思っています。

Q:会社の技術や取り組みで一番の強みはどこだと思いますか？

私たちの会社で最も強みだと思っている部分は、「精密さ」です。すべてのジュエリーを機械ではなく手で作っているからこそ、より精密に製造しようと思っています。機械を使えば大量生産をすることができ、人件費も削減できます。しかし、製造から検品まですべてを顕微鏡を使って行い、機械ではなく人間の手や目を使うことによって、手間暇をかけて品質の高い精密なものを製造することが大切だと考えています。そうすることによって価値の高い商品を生み出すことができているのが強みだと考えています。

設備について

Q:cadオペレーターとはどのような設備なのですか？

昔はジュエリーの製造をすべて手作りで行っており、ジュエリーの原型を作るのもすべて手作業で人間が行っていました。しかし、近年cadソフトが進化しており、コンピューターで3Dデザインを作れるようになりました。その3Dデザインを作るコンピューターがcadオペレーターという設備です。

以前は職人を育てるとなると、最低でも10年はかかりました。しかし、cadの職人だったら2～3年で育てることができ、圧倒的にかかるコストが削減できるようになりました。

伝えたい想い

日本の製品というのはどれも非常に品質が高くて素晴らしいものばかりです。しかし、日本人の皆さんはそれをあまり誇りに思えていない部分があります。私は日本の製品の品質の良さを海外の人々にも伝えていきたいです。

代表取締役
太滝 日緑

そのためにもまずは日本人である皆さんに日本の製品のすばらしさを理解していただき、その良さを広めていっていただけたら嬉しいと思います。

取材を終えて

今回取材を終えてまず感じたことは、男性だけではなく、女性にとっても非常に働きやすい会社であると感じました。近年では人手不足でなかなか働きやすい環境を整えるということは難しいことであると思います。

しかし、太滝さんでは従業員を一番に考える体制を整えており、とても温かい雰囲気のある会社でした。地元の地場産業を大切にしているという点からも、地域に貢献した会社であると感じました。自分自身も地域貢献やSDGsについて改めてたくさんのことを学ぶことができ、非常に貴重な経験になりました。

山梨学院大学
灰谷 伊織

3 株式会社 オズプリンティング

株式会社 オズプリンティング

印刷物だけではなく「デザイン」にも力を入れている。
ホームページの作成などデジタルコンテンツを扱った事業も行っている会社。

新しい紙の可能性

SDGsの取り組みについて

Q:どのようなSDGsの取り組みをされていますか？

LIMEX(ライメックス)と呼ばれる、石灰石を原料に含んだ紙を使用した製品をつくっています。LIMEXは水資源や森林資源の利用を抑えて100%再生可能な素材になっています。LIMEX素材では、従来の紙を作るまでに発生するCO2を大幅に削減することができるのが特徴です。

食べられなくなったお米で作った米紙や、廃棄される柚子の皮、ジーンズの生地を練りこんだ和紙などを利用し、新たな価値を創出したり、山梨県産の木の間伐材を利用した紙でワクチン手帳の企画から制作までを実現しています。

Q:具体的にはどのような製品を開発していますか？

フードロスの削減をテーマにしたかるたを山梨県の大学生らと協力して作成しました。そしてそのかるたは全国に貸し出しを現在も行っています。主には、農林水産省や埼玉県、宮崎市などの官公庁をはじめ、ガールスカウトや幼稚園などへの貸し出し実績があります。

かるた本体は先ほど説明した新素材のLIMEXで作られています。LIMEXは水に強く、アルコール消毒を吹きかけても繰り返して使うことができますので、衛生的な面においても大変好評を得ています。

ワクチン手帳は、現在は販売することはできていないですが、販売の声はいただいています。

<レポート作成者>　山梨学院大学
久保田 悠斗

課題・やりがいについて

Q:事業を進める中で課題となった部分、大変だった部分はありますか？

新素材のLIMEXの価格が従来の用紙と比較してまだまだコストの面でネックとなっている点です。

また、かるたを様々なところに貸し出しをしていますが、かるたをスムーズに返却して頂けない事案も多々あり、残念な気持ちになることもありました。SDGsのロゴが入っていると営利目的で使用することができず、簡単にお金を出して増刷することができないため、少しずつ減ってしまっています。

Q:逆に良かったことや楽しかったことはありますか？

SDGsの取り組みを行って良かったことは、世の中の流れについていけることや「印刷の技術によって社会に貢献する」という会社の目標があり、その目標を元に新しいものを作ってお客さまの成果に貢献したいという思いがありました。この取り組みは私にとっても、会社にとっても、とてもやりがいの感じた取り組みのひとつです。

フードロス削減かるたは全国から貸し出しの声が掛かってきていて、このかるたをきっかけに市や様々な企業とお話をさせていただく機会が増えました。

職場環境について

Q:働きやすい環境をつくるために意識していることはありますか？

LINEワークスと呼ばれる連絡ツールを使用することで、誰が既読したかを把握できるので、従業員同士の連絡が取りやすくなりました。

また、日頃なかなか伝えられない感謝の気持ちを伝える方法として、「ありがとうカード」というものを活用しています。落とし物を拾ったり、ゴミ出しをしたりなど、小さなことでも従業員同士で感謝を伝えています。

伝えたい想い

WEBデジタル事業部
小澤　美寿々

どんな事にも言えることですが、段取り8分という言葉があるように準備の段階が一番大切です。「ものごとを俯瞰(ふかん)するチカラ」、「目的や成果から逆算をしてするべき行動を見出し実行するチカラ」。この2つが今でも私がとても大切にしているチカラですし、まだまだ身に付けなくてはならない課題でもあります。

未来ある皆さんには、まだ多くを許される学生という立場である今だからこそ、今しか出来ないこと、たくさんの挑戦をし、たくさんの失敗をしてほしいと思っています。失敗から得られる経験値は、きっと今後の人生において身を助けることとなることでしょう。失敗するかもしれないと一瞬怖くなるかもしれませんが、ぜひ勇気をだして一歩踏み出してみてくださいね。

取材を終えて

山梨学院大学
久保田　悠斗

取材をする前は、印刷会社なのでペーパーレスについて取り組んでいるのかと思っていたのですが、自分で調べたりインタビューを行ったことで、ペーパーレスとは違うことに力を入れていることが分かり驚きました。LIMEXという新素材ではあるのですが紙だからこそできる活動をしていて、確かに紙だからこそ伝えられる温もりなどがあると感じました。

このかるただからこそ子供でも触れやすいものになっていると思うので、SDGsについて多くの人に知って貰いたいと思いました。

4 株式会社 七保（ななほ）

木材で守る環境 築く未来

株式会社 七保

① 木材・住宅資材の販売

② 木造住宅・非住宅の施工

③ リフォーム・リノベーション事業

④ 家づくりサポート事業

を主な事業とし、木造建築にかかわることで、SDGsの目標達成に貢献している企業

SDGsの取り組みについて

Q：SDGsの取り組みは何がきっかけで始まりましたか？

株式会社七保は、創業当初から建材業を主力としてきました。その中で、木材が二酸化炭素を吸収する性質を持ち、地球温暖化に寄与することに着目しました。木造建築で使用される木材は「第2の森林」とも呼ばれ、環境保全において重要な役割を果たしています。

一方で、山梨県では樹齢50年以上の人工林が人工面積の約60%を占めており、10年後にはその割合が80%に達するとされています。この状況を踏まえて、地元の木材資源を有効活用し、持続可能な地域社会を目指すことがSDGsに取り組む大きなきっかけとなりました。

Q：どのようなSDGsの取り組みをされていますか？

七保では、山梨県産の木材を加工・利用し、地域内での木造建築を積極的に促進しています。特に、学校や公共施設などに木材を使用することで、環境負荷を軽減しながら地域の森林資源を循環させる取り組みを行っています。

また、この活動を通じて「第1の森林」を保全しつつ、「第2の森林」としての人工林を持続的に活用することを目指しています。こうした取り組みは、地球温暖化や地域経済の活性化に貢献すると同時に、SDGsの目標達成にもつながると考えています。

<レポート作成者>　山梨学院大学
春原　秀歩

課題・やりがいについて

Q:事業を進める中で課題となった部分、大変だった部分はありますか？

事業を進める中で、最大の課題は地元での木材利用の普及と人工林の価値に対する理解を深めてもらうことでした。特に、木造建築の利点や環境への貢献について、地域社会や行政との協力が必要でした。

また、山梨県の人工林は樹齢が50年以上と高くなり、木材として利用するには加工や運搬のコストがが高いという課題も浮上しました。このため、効率的な加工技術の導入や、地元産材の価格競争力を維持するための体制づくりが求められました。

Q:逆に良かったことや楽しかったことはありますか？

地域の人々と連携しながら山梨県産木材の活用を推進していく中で、多くのやりがいを感じる場面がありました。特に、木造建築が完成し、その建物が学校や公共施設ちして地域の人々に利用される姿を見ることは大きな喜びです。地元産材が「地域の未来を支える一部」になっていると実感できる瞬間は、事業に取り組む意義を再確認させてくれました。

木材プレカット

Q:木材プレカットを具体的に教えてください。

プレカット加工は、木造建築に使用される木材を事前に工場で精密に加工する技術であり、効率性と持続可能性を兼ね備えた方法です。この技術を活用することで、いくつかのSDGsの目標達成に貢献しています。プレカット加工では、山梨県産の木材を効率よく利用し、廃材の削減を実現しています。特に、樹齢50年以上の人工材を積極的に活用することで、森林資源を循環させ、「第1の森林」の保全にも貢献しています。これは、持続可能な森林管理と生態系の保護に直接つながる取り組みです。

伝えたい想い

管理本部
天野 豊

株式会社七保が取り組む山梨県産木材の活用には、地元の資源を守り、未来へ繋げていきたいという強い思いが込められています。樹齢50年以上の人工林を有効に活用しながら、自然環境を保全し、地域社会と共に成長していくことを目指しています。

これからの取り組みを通じて、持続可能な地域づくりの一助けとなり、次世代に豊かな環境と社会を引き継ぎたいと考えています。

取材を終えて

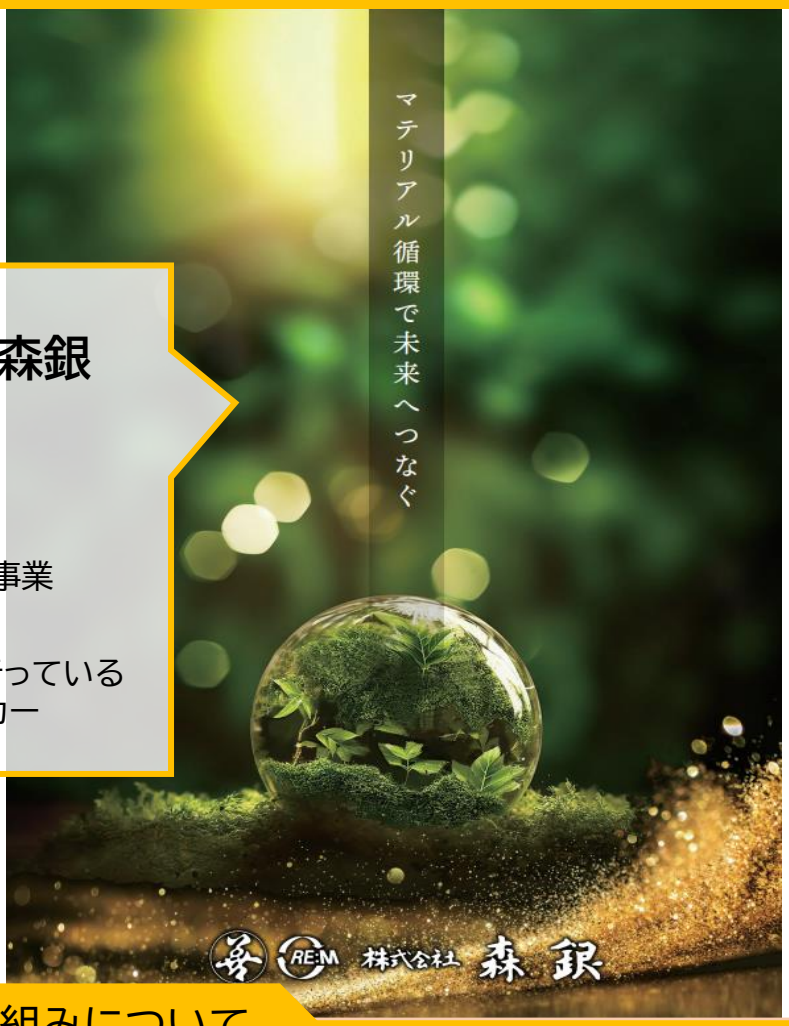
山梨学院大学
春原 秀歩

今回の取材を通じて、地元の森林資源を活用した株式会社七保の取り組みが、SDGsや地域社会の持続可能な発展に深く結びついていることを学びました。木材のプレカット加工や地元産材の活用を通じて、環境保全と地域活性化の両方を目指す姿勢に大きな影響を受けました。

地域資源を活かす工夫は、自分の学びにもつながり、今後の活動が地域にどのような変化をもたらすのか関心を持ちました。

5 株式会社 森銀（もりぎん）

限りある鉱物資源を未来へ



株式会社 森銀

- 材料製造事業
- 分析・検査事業
- リサイクル事業
- 産業廃棄物処理事業
- 地金売買

この5つの事業を行っている
貴金属の総合メーカー

SDGsの取り組みについて

Q:SDGsを取り組むきっかけは何から始まりましたか？

戦後の苦しい時代、貴金属を安定して確保し、伝統工芸品を制作する東京の『森銀器製作所』は全国でも一目置かれる存在でした。その森銀器に山梨の名だたる複数のジュエリーメーカー様から、「材料を安定供給できる会社を立ち上げてほしい」と要望を受けたことが『森銀』のはじまりです。

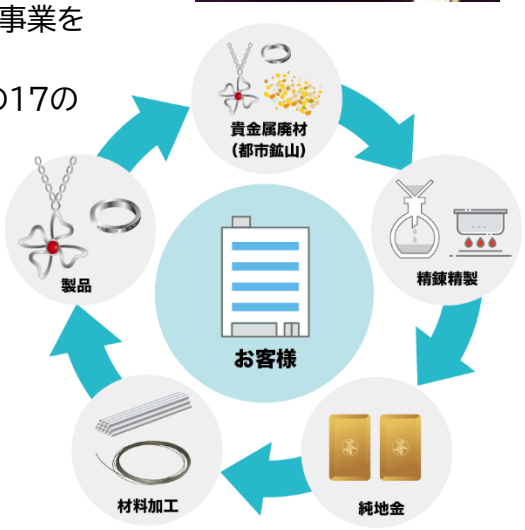
創業者の森雅宜は、国内では鉱物資源がほとんど採取できない状況を日本の弱点と認識し、廃棄される現像フィルム液等から銀を取り出す事業を展開します。これが、森銀のマテリアル循環事業の始まりです。

50年以上前から取り組んでいるマテリアル循環事業が、SDGsの17のゴールにマッチした事業であると言われるようになりました。

Q:どのようなSDGsの取り組みをされていますか？

特徴的な部分では精錬精製というリサイクル事業です。例えば、ジュエリーメーカー様では、ジュエリーを研磨した際に出る粉等を回収して、森銀でもう一度貴金属に戻しています。そしてジュエリーや工業製品の材料として再生しています。

その他にも、山梨県内唯一の化学系産業廃棄物の湿式理中間処分場として環境事業に取り組んでいます。



<レポート作成者>　山梨学院大学
清水 康太

サーキュラーエコノミーについて

Q:サーキュラーエコノミーを具体的に教えてください。

大量生産消費・大量廃棄の社会システムの『リニアエコノミー』に対し、これまで経済活動のなかで廃棄されていた製品や原材料などを「資源」と捉え、リサイクル・再利用などで活用して循環させる新しい経済システムを『サーキュラーエコノミー』と言います。

1つ1つ科学していく考え方を重視し、社会の中で何ができるのだろうかと考えてサーキュラーエコノミーに近づくことは、資源の枯渇や環境問題の対策、サステナブルな社会の実現に繋がると考えています。

リサイクルメタルについて

Q:リサイクルメタルについてどのような取り組みをされていますか？

自然鉱山1tから採れる金の平均は3gしかありませんが、都市鉱山※のパソコンの基盤1tから金は100～300g採れるため、CO_2排出量の大幅な削減が期待されます。

森銀の「リサイクルメタル」は、どの都市鉱山から採取した貴金属なのかを証明する「リサイクルメタル証明書」の発行にも取り組んでいます。実際に、証明書の問い合わせも増えてきました。

ゴミという資産の管理が当たり前になった時に、これまで積み重ねきた経験が循環型社会の未来創造に繋がっていくと信じています。

※都市鉱山…産業廃棄物の家電製品などに含まれる有用な資源（貴金属やレアメタル等）の総称

2023年 10月 11日
株式会社森銀

リサイクルメタル証明書

下記の製品は、弊社の材料管理部門及び精錬精製工場によって
リサイクルメタルへの取組みに基づき
材料調達から製造まで徹底管理された製品である事を証明致します。

【 製品 No.23 】

製造番号	商品名	数量	製造日
B0060533	TSR-20	2.90 g	2023.10.11

【 再生元 】

精錬精製番号	再生品名	精製原料	数量	精錬精製日
D0001736	R.M.Ag 組合有機酸	Ag	2.68g	2021.3.30
EE-Cu4	R.M.Cu	Cu	0.22g	2022.2.19

住　所　山梨県甲府市落合町６８１－１
会社名　株式会社森銀
代表者名　森 善宣

株式会社 森銀

課題・やりがいについて

Q:事業を進める中で課題となった部分、大変だった部分はありますか？

付加価値をつけた「リサイクルメタル」を展開していますが、まだ認知度が低い現状があります。一社が一貫してマテリアル循環事業を行う森銀だからこそ、リサイクルメタル証明書を発行して保証することができるため、ご購入されるお客様に届く商品まで証明していきたいと考えています。実際に製品をつくり、どのような問題点があるのかを理解し、未来のSDGsに繋げていきたいと思っています。

Q:逆に良かったことや成果はありますか？

社員教育に繋がっています。会社の未来を共に創造してくれるようになりました。

伝えたい想い

森銀は人の教育を中心にして考えています。

今取り組んでいる循環事業は会社の使命やビジョンですが、経営理念では人の成長を助ける、応援するのが森銀という会社です。

この経営理念をもとに事業を進めています。

代表取締役
森　善宣

取材を終えて

取材を通じて山梨県の企業の中にこのような形でSDGsに取り組んでいる企業があることを知り、とても勉強になりました。今までリサイクルメタルというものを知りませんでしたが、廃材から新しい幸せを生み出す素晴らしい取り組みだと思いました。

山梨学院大学
清水　康太

甲府市 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

甲府市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

令和6年度「若者によるSDGs普及啓発事業」

企画：甲府市企画部SDGs推進課・リコージャパン株式会社山梨支社

協力：山梨大学・山梨学院大学